

要約

2008年より開始した「スバイアントー郡保健行政区コミュニティにおける母子保健プロジェクト」は、保健センター・スタッフと保健ボランティアが協力して包括的妊産婦健診活動および乳幼児健診活動を実施することを旨とした事業である。プレイベン州スバイアントー郡保健行政局をカウンターパートとし、人口約65,000人を対象とする6箇所の保健センター管轄区97カ村で実施された。

本事業は2011年2月をもって終了し、事業実施者である当会カンボジア事務所のスタッフにより、DAC5項目に基づく内部評価を行った。

本事業は、カンボジア国保健省のHealth Strategic Plan2の優先課題の一つである母子保健分野における取り組みであり、国のニーズに合致している。また、母子保健はカンボジア国別援助計画の重点分野・課題別方針に含まれており、日本のODAの方針とも合致している。更に、公的保健サービスの質を上げ、利用者を増やすこと、住民が適切な予防行動をとることは、事業対象者である保健行政や保健センター、裨益者である地域住民のニーズにも合致しており、妥当性は非常に高い。

包括的乳幼児健診活動については、保健センター・スタッフおよび保健ボランティアの能力強化、二者間の協力関係強化を通して、実施率・受診者数ともに目標を達成し、特に予防接種率の増加に寄与することができた。一方、妊産婦健診活動についてはOJTを通じた保健センター助産師の能力強化に留まり、実施率・受診者数の増加には至らなかった。監督機関である郡保健局の能力向上も、限定的ではあるが目標達成に貢献した。また、2棟の保健センター開設が保健サービス利用の促進につながった。以上により、プロジェクト目標はほぼ達成された。

包括的健診活動に関する能力強化については、当会スタッフへのインプットと対象者への研修計画および準備を組み合わせたことで、より質の高い研修の実施につながった。また、クラス型研修後、アウトリーチでのフォローアップ(In-Service研修)に力点を置いたことで、少ない費用でより多くの対象者に対して実践的な能力および協力関係強化ができたと同時に、包括的健診活動の実施率向上に貢献した。一方、保健センター開設については、建設そのものはスケジュール通り行われたものの、準備プロセスの諸手続きにおいて一部課題が残った。よって本事業は概ね効率的であったといえる。

包括的乳幼児健診活動で、従来行われていなかった成長モニタリングを実施したことで、今までほとんど実態が把握されていなかった栄養不良児の発見につながり、子どもの健康に対する住民の意識にも変化が出ている。また、保健センター・スタッフ及びボランティアへの能力と協力関係強化の結果、包括的健診活動以外の保健センター・サービスにおいても改善が見られたとの報告があがっている。よって高いインパクトがあった。

本事業は、郡保健行政局をカウンターパートとし、国の保健政策および保健制度に沿った形で活動を形成しているが、包括的健診活動の定着のためには保健センターおよび郡保健行政局の高い運営能力が求められるため、現時点では自立発展性に一部課題が残る。

上記の評価結果より、本事業の総合評価はB=満足 (Satisfactory)という結論になった。縦割りで実施されている保健サービスプログラムを保健センターレベルで統合し、保健ボランティアとの協力のもと実施する包括的健診活動の導入を通して、保健センターおよび保健ボランティアの能力および協力関係の強化が図られたこと、また包括的乳幼児健診活動の実施により、これまで地域でほとんど把握されていなかった栄養不良児の実態が明らかになり、保健行政、保健センターおよび地域住民が、子どもの健康増進に対する継続的な取り組みの必要性を確認したことは、本事業の大きな成果である。